

<b>特講・福祉心理学 9</b> (コミュニティ心理学)	単位数	履修方法	配当年次
	<b>1</b>	<b>S</b>	<b>1</b> 年以上
科目コード	<b>FT2609</b>	担当教員	<b>萩原 豪人</b>

※この科目はオンデマンド・スクーリングによる受講が必須です。受講希望者は10/1までに、履修登録と「TFUオンデマンド」上でのスクーリング申込みが必要です。

※2018年度に会場スクーリングが予定されていますが、担当教員・講義内容・教科書などは変更予定です。会場スクーリングを受講希望の方は2018年度に履修登録をしてください。

### ■スクーリングで学んでほしいこと

コミュニティ心理学は、1965年アメリカで誕生した、まだ新しい心理学と言えます。現代は、伝統的な個人心理療法だけでは解決できない多種多様な問題を抱えています。例えば、ひきこもりや虐待の問題は、相談室で待ち構えているだけでは、解決が非常に難しい問題です。コミュニティ心理学的アプローチでは、そのような心理・社会的な問題に対し、どのように取り組んでいるのでしょうか？

心理的・社会的な問題は、専門家だけでなく、コミュニティに共に生きる全ての人々が、自ら考え、関わりを持っていくことで変化していきます。本講座を通して、そのような基本的な発想と姿勢を身に付けて頂ければと思います。

### ■到達目標

- 1) コミュニティ心理学の基礎知識について述べるができる。
- 2) コミュニティ心理学の発想をもった心理臨床家としての視点・基本姿勢について説明できる。
- 3) 様々な領域において、どのようなコミュニティ・アプローチがなされるか理解し、その上で、伝統的な個人心理療法との違いを説明できるようにする。

### ■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	伝統的個人心理療法との違い	コミュニティ心理学と伝統的個人心理療法との比較
2	コミュニティ心理学の歴史と特徴	コミュニティ心理学の誕生の歴史と特徴
3	危機介入	危機介入の理論と方法
4	予防とサポート・ネットワーキング	予防やサポート・ネットワーキングの方法
5	コンサルテーション	コンサルテーションの理論と方法
6	コミュニティ・アプローチの実際①	スクールカウンセリングの実際
7	コミュニティ・アプローチの実際②	ボランティア活動やNPO活動の実際
8	質疑応答	授業の内容に関する質疑応答

**■講義の進め方**

空欄穴埋め式の配付資料にそって、板書を中心に講義を進めます。臨床事例を含む一部資料は配付できないので、ご了承ください。

**■スクーリング 評価基準**

授業への参加態度 50% + スクーリング試験（持込すべて可：論述式） 50%  
スクーリングに対する積極的な姿勢と最後の時限に実施する試験の総合評価とします。  
オンデマンドで受講する場合は、スクーリング試験100%で評価します。  
試験は論述とし、上記の目標に到達しているかどうかについて評価します。

**■スクーリング時の教科書**

植村勝彦他編『よくわかるコミュニティ心理学 第2版』ミネルヴァ書房、2012年を参考程度に使用します。

※教科書はスクーリング受講料納入者に送付します。

**■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）**

テキスト全てに目を通してから受講する必要はありませんが、前半の基本的な説明（特にⅠ～Ⅱ章）と個人的に関心のある分野の実践が書かれている箇所は、読んでから授業に参加されると、より深く理解ができるものと思われます。

**■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）**

教科書や参考図書、配付資料を確認しながら、理解が不十分な個所やさらに深く学びたいと思ったことに対して、調べてみてください。

**■「卒業までに身につけてほしい力」との関連**

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」、「集団理解に基づく対人調整力」、「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

**■参考図書**

山本和郎著『コミュニティ心理学』東京大学出版会、1986年